

進化経済学会ニューズレター

No.58 August 2025



(「都市の森」づくりが進むパリ市庁舎前 6月初めに撮影：横田宏樹)

進化経済学会事務局

〒564-8680

大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学政策創造学部

徳丸宜穂研究室

- ✓ 進化経済学会・関西大会を終えて
- ✓ 2025 年度進化経済学会下関大会オータムコンファレンスのご案内
- ✓ 第 29 回進化経済学会関西大会理事会議事録
- ✓ 第 29 回進化経済学会関西大会総会議事録
- ✓ 進化経済学会会勢状況
- ✓ 第 29 回進化経済学会関西大会会計報告
- ✓ 2023 年度収支計算書決算報告
- ✓ 2024 年度収支計算書中間報告
- ✓ 2025 年度予算（案）
- ✓ 2024 年度部会報告
- ✓ 2025 年 3 月「進化経済学アンケート」結果
- ✓ 編集後記

進化経済学会・関西大会を終えて

大会事務局 小川一仁

2024年度の第29回大会では、関西大学を会場に9月のオータムカンファレンス、3月の本大会を実施いたしました。本大会のテーマを「生成AIと経済社会の共進化」とし、特にオータムカンファレンスを中心に研究発表・シンポジウムを開催いたしました。

本大会でテーマに即したものをしっかり打ち出せなかったのは心残りですが、そのような中でも多くの方に参加いただけたのは大変有り難いことでした(オータム30名、本大会約100名)。特に、今回は関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構との共催で年次大会を開催したため、非学会員の方の参加も見られました。前回大会でも(それ以前にも)学会を他団体と共催するやり方が見られましたが、非学会員に学会の魅力を発信するにはよいやり方であると確信しました。

本大会では約40の報告がなされ、活発な討議が行われました。海外にいる報告者がオンライン報告をするという形も定着してきたように感じました。海外のゲスト報告をオンラインにするという方式は、今後の大会運営の一つの柱になるように感じました。

今回は各所の調整を行う余裕がなく実施できませんでしたが、各セッションの司会の先生が自分のセッションの報告論文の中で水準に達しているものをEIERに推薦する、という方式もEIERの投稿数および一定の質の論文を確保するという点からトライする価値があるものだと思います。

最後になりますが、第29回大会の実施にご尽力いただきました会員みなさまに厚く御礼申し上げます。個人的に2004年の関西大学大会で学会デビューした(セッション司会は吉田雅明会長)、こともあり、思い入れのある大会でした。大過なく終われたことに安堵しています。

2025 年度進化経済学会下関大会 オータムコンファレンスのご案内

2025 年度下関大会のオータムコンファレンスは、大会統一テーマ「**制度・イノベーションと経済成長**」のもと、以下の要領で開催されます。

- ・ 日時:2025 年 9 月 13 日(土) 13 時~17 時
 - ・ 会場:下関市立大学 本館 I 棟 I-206 教室
(〒751-8510 山口県下関市大学町 2-1-1)
 - ・ 報告者は、以下の 3 名の先生方(敬称略)です。
梶谷 懐(神戸大学)「企業間取引の秩序学:中国の電子産業からの視点(仮題)」
永田 晃也(北陸先端科学大学院大学)「イノベーション・エコシステムの進化における制度の役割」
徳丸 宣穂(関西大学)「社会的ニーズ指向のイノベーションと「イノベーション公共空間」:その制度的基礎(仮題)」
- * 17 時 30 分より、懇親会を開催(場所は、下関市大・厚生会館内食堂)します。
- * 交通アクセス: <https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/about/campus/access>
- * キャンパスマップ: <https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/life/introduction/campusmap>

大会統一テーマの趣旨は以下の通りです。

経済成長における制度の役割やイノベーションとの関係については、これまで本学会でもたびたび取りあげられてきたテーマである。このテーマを 2025 年度のオータム・コンファレンスと年次大会の統一テーマとして再度、取りあげようとするきっかけをなすのは、2024 年のノーベル経済学賞受賞者であるダロン・アセモグルとジェームズ・ロビンソンによる制度論である。彼らによる「包括的制度」と「収奪的制度」の違いについての議論は、制度の「質」がイノベーションを支える環境を生むかどうかについての重要な論点になろう。この論点に対して、進化経済学の立場からどのような回答と分析を提起できるのか。これと同時に、イノベーションの促進要因についても重要な論点となろう。ここではイノベーションを支える制度的枠組みとはどのようなものか、また企業の競争環境や規制の役割なども議論の焦点となるはずである。そして、実証研究と政策提言の観点から、成功例と失敗例も含めた各国の事例分析も必要なものとなろう。

このように制度の質とイノベーションの関係、イノベーションそれ自体の促進要因の考察、これらを踏まえてどのような政策提言につなげていくのかを多角的に議論することは、持続可能な成長・発展に向けた貴重な示唆をもたらすことが期待できるだろうし、本学会にとっても 2002 年度第 6 回大会(関西大学:「知識・組織・社会のイノベーションと進化経済学」)および 2008 年度第 12 回大会(鹿児島国際大学:「地域ネットワークとイノベーション—知識、制度、進化—」)に引き続く、進化経済学からの新たな挑戦となることを期待したい。

なお、オータムコンファレンスへの参加の申し込みについては、8月上旬から開始する予定です。

以下は、下関の宿泊施設の情報です。参考にしてください。宿泊については、早めの予約をお勧めします。

【下関駅・年次大会会場（生涯学習プラザ）周辺】

宿泊施設名	住所	電話（083）
ヴィアイン下関	竹崎町 4-2-33	222-6111
ホテルウィングインターナショナル下関	竹崎町 3-11-2	235-2111
プリンスホテル下関	竹崎町 3-10-7	232-2301
グリーンホテル下関	竹崎町 1-16-13	231-1007
スマイルホテル下関	竹崎町 4-4-1	233-0111
下関ステーションホテル	竹崎町 2-8-11	231-2225
スーパーホテルPremier 下関	細江新町 3-50	229-9000
旅館割烹 寿美礼	竹崎町 3-13-23	222-3191
下関駅西ワシントンホテルプラザ	大和町 1-4-1	261-0410
ドリーミーイン PREMIUM 下関	細江新町 3-40	223-5489
東横イン下関海峡ゆめタワー前	豊前田町 2-7-10	234-1045

【唐戸周辺】

宿泊施設名	住所	電話（083）
下関グランドホテル	南部町 31-2	231-5000
唐戸セントラルホテル	幸町 11-1	231-5235

また第30回の本大会については、下記の日時・会場で開催します。

- ・ 日時：2026年3月14日（土）・15日（日）
- ・ 会場：DREAM SHIP（下関市生涯学習プラザ：〒750-0016 下関市細江町3-1-1）

*交通アクセス：<https://s-dreamship.jp/information/access/>

- ・ 懇親会会場：市立しものせき水族館「海響館」・イルカの見えるレストラン
(<https://www.kaikyokan.com>)

オータムコンファレンス、本大会の詳細情報については、大会HP (https://jafec.org/shimonoseki_2025/)
において順次、更新して参ります。

- ・ 連絡先：進化経済学会下関大会実行委員会： jafec.shimonoseki2025@gmail.com

第 29 回進化経済学会関西大会理事会議事

日時：2025 年 3 月 22 日（土）12:30~13:20

場所：関西大学第三学舎 2 号館 5 階 B501A 教室+オンライン配信

出席者：吉田雅明（会長）、橋本敬（副会長）、小川一仁（大会実行委員会）、浅田統一郎、荒川章義、有賀裕二、池田毅、磯谷明德、井出明、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、黒瀬一弘、巖成男、谷口和久、遠山弘徳、徳丸宜穂（事務局）、中原隆幸、鍋島直樹、西洋（会計）、西部忠、服部茂幸、藤田真哉、藤田菜々子、宮崎義久、森岡真史、八木紀一郎、横田宏樹、吉井哲

欠席（委任状あり）：

欠席（委任状なし）：

1. 報告

1. 1 会長挨拶

吉田会長より挨拶があった。

1. 2 第 29 回大阪大会参加状況について

小川理事（大会実行委員会）より、第 29 回関西大会の参加者が 100 名を超える見込みだという報告があった。

1. 3 会勢報告

資料 1

徳丸事務局担当理事より会勢報告が行われた。

1. 4 日本経済学会連合報告

資料 2

池田理事より報告が行われた。

1. 5 各部会報告

特になし。

1. 6 各委員会報告

宮崎理事（JAFEE 通貨運営委員会）より、一層の利用を促したい旨の報告があった。

1. 7 第 30 回大会について

磯谷理事（次期大会実行委員長・下関市立大学）より、オータムコンファレンスが 9 月 13 日、大会が 2026 年 3 月 14-15 日に、下関で開催されるとの報告が行われた。

2. 議題

2. 1 入退会について

資料 1

徳丸事務局担当理事より、メール審議によって承認された新規入会者が提示され、これを確認した。また、退会希望者が提示され、これを了承した。

2. 2 2024 年度決算中間報告

資料 3

西会計担当理事より 2024 年度決算中間報告が行われ、これを了承した。

2. 3 2025 年度予算について

資料 3

西会計担当理事より 2025 年度予算案が提案され、これを了承した。

2. 4 進化経済学会賞・奨励賞選考委員会委員長並びに委員の交代について

徳丸事務局担当理事より、次年度の学会賞・奨励賞選考委員が、小山友介（委員長）、小林重人、大熊一寛（新規）、山本泰三（新規）の各会員になることが提案され、了承された。

2. 5 第 10 回学会賞および第 6 回奨励賞の募集要項について

資料 4

徳丸事務局担当理事より、募集要項案が提示され、了承された。また、選考審査の時点で会員であれば審査対象とすることが申し合わされた。

2. 6 進化経済学会会則 附則の追加について

資料 5

徳丸事務局担当理事より、附則の追加案が示され、了承された。

3. その他

吉田会長より、**EIER** の負担金支払いの減額を実現するためにも投稿本数を増やす必要があること、またそのために投稿を促進するような方策・イベントを企画することが提案された。また、日本語既発表論文の扱いについて、論文以外の投稿カテゴリーの利用促進について、海外からの投稿促進について、査読者選定について意見が出された。

文責：事務局担当理事 徳丸宜穂

第 29 回進化経済学会関西大会総会議事録

日時：2025 年 3 月 22 日（日）13:00~14:00

場所：関西大学 第三学舎 4 号館 5 階 D501 教室

1. 議長の選出

山本英司会員を議長に選出した。

2. 吉田雅明会長挨拶

吉田雅明会長より関西大会開催に際して挨拶があった。

3. 開催状況報告

小川一仁理事（大会実行委員会事務局）より大会開催状況報告があった。

4. 会勢報告

資料 1

徳丸事務局担当理事より資料に基づき会勢報告が行われた。また、入退会について提案があり、了承された。

5. 2023 年度決算報告ならびに監査報告

資料 2

西会計担当理事による説明、黒瀬監査担当理事より監査報告がそれぞれ行われ、2023 年度の会計決算報告が了承された。

6. 2024 年度決算中間報告

資料 2

西会計担当理事より 2024 年度の暫定的な会計決算報告が行われ、了承された。

7. 2025 年度予算について

資料 2

西会計担当理事より 2025 年度の予算案が提案され、了承された。

8. 第 10 回学会賞ならびに第 6 回奨励賞の募集について

資料 3

小山友介次期選考委員長より募集要項に関する報告があった。

9. 進化経済学会会則 附則の追加について

資料 4

徳丸事務局担当理事より資料に基づき説明が行われ、了承された。

10. 各種委員会報告

宮崎義久理事（JAFEE 通貨運営委員長）より、JAFEE 通貨への積極的な登録・利用への呼びかけがなされた。

11. 次年度開催校について

@ 下関市立大学

磯谷明徳理事（次期大会実行委員長・下関市立大学）より、オータムコンファレンスが 9 月 13 日、大会が 2026 年 3 月 14-15 日に、下関で開催されるとの報告が行われた。

文責：事務局担当理事 徳丸宜穂

2024年9月21日 時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	283 (休会3含む)
個人終身正会員	24
院生会員	36 (入会1休会3含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	0
345	

2025年4月1日 時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	270 (休会3含む)
個人終身正会員	24
院生会員	38 (休会3含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	1
個人準会員	0
333	

第 29 回進化経済学会関西（関西大学）大会 会計報告

2025 年 3 月 22 日 会計担当理事

西 洋（阪南大学）

1. 2023 年度（令和 5 年度）収支計算報告

- ・ 資料 1「監査済 2023 年度収支計算書決算報告」参照

2. 2024 年度（令和 6 年度）収支計算中間報告（2024/4/1～2025/2/14）

- ・ 具体的な内訳については資料 2「2024 年度収支計算書中間報告」参照

【収入と支出：2024/4/1～2025/2/14】

収入	24 年度			支出	24 年度		
	予算案	決済額	増減		予算案	決済額	増減
当期収入合計	2,804,000	2,019,652	-784,348	当期支出合計	4,070,000	2,300,537	-1,769,463
前期繰越金	5,920,246	5,920,246	0	繰越金	4,654,246	5,639,361	985,115
総計	8,724,246	7,939,898	-784,348	総計	8,724,246	7,939,898	-784,348

【貸借対照表：2024/4/1～2025/2/14】

借方		貸方	
普通預金	32,743	前受会費	55,000
郵便振替	5,261,618	前期繰越金	5,920,246
コンビニ払い未入金	0		
仮払金	400,000	当期差益	-280,885
合計	5,694,361	合計	5,694,361

【収入と支出：2024/4/1～2025/3/31 見込みについては資料 2 を参照】

3. 2025 年度（令和 7 年度）予算案

- 具体的な内訳については資料 3「進化経済学会 2025 年度予算（案）」参照

収入	25 年度	(参考)	増減	支出	25 年度	(参考)	増減
	予算案	24 年度			予算案	24 年度	
前期繰越金	5,604,352	6,022,392	-418,040	当期支出合計	3,970,000	4,070,000	-100,000
収入	2,844,000	2,804,000	40,000	繰越金	4,078,352	4,756,392	-678,040
総計	8,048,352	8,826,392	-778,040	総計	8,048,352	8,826,392	-778,040

【収入・支出項目についての変更点や注意】

- 繰越金と会費収入は 2025 年 3 月 8 日時点での見込みをもとにした予想を計上しているが、実際には年度末にかけての納付によって微増する。
- 大会収入はオータムカンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭に今年度と同額の収入を計上（参考：コロナ禍（2022 年度）ではオータム 5 万円，本大会 15 万円）。
- 事務委託費の 2024 年度見込みは、75,000 円程度であるが、ややゆとりを持たせて 200,000 円を計上。（参考：2021 年度まで 650,000 円を計上，24 年度は 300,000 円を計上）。
- なお収入において 25 年度前期繰越金は約 615.4 万を、決済額では約 462.8 万をそれぞれ見込み，両者の間には約 150 万円のギャップがある。この背景には、本大会での支出 70 万円を事実上使っていないことを中心に予算執行を 70%程度に抑えていることがある。この程度に予算執行を抑えれば繰越金はおおよそ 600 万円程度になることが見込まれる（逆に言えば、予算執行を 100%で行えば，予算どおり繰越金はおおよそ 475.6 万円になる）

参考) 繰越金の推移（2007 年度から）



(注) 2023 年度オータムカンファレンス理事会提出資料と同じ：2023 年度の繰越金は 5,920,246 円。

以上

進化経済学会

2023年度 収支計算書
(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	
会費	2,170,000	2,775,000	605,000	大会費	1,100,000	612,069	-487,931	
正会員当該年度	1,950,000	2,100,000	150,000	オータム・コンファレンス	400,000	54,760	-345,240	
正会員過年度分	0	490,000	490,000	本大会	700,000	557,309	-142,691	
終身正会員当該年度	150,000	90,000	-60,000	英語誌編集発行費	2,200,000	2,200,000	0	
院生会員当該年度	50,000	55,000	5,000	通信費	16,000	5,568	-10,432	
院生会員過年度分	0	30,000	30,000	交通費	0	0	0	
準会員	0	0	0	事務用品費	64,000	8,283	-55,717	
賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	16,000	0	-16,000	
JAFEE通貸寄付	0	0	0	送金手数料	16,000	5,910	-10,090	
その他(前受会費：預り金)	20,000	10,000	-10,000	会議費	0	0	0	
大会収入	400,000	709,923	309,923	印刷費	0	0	0	
オータム・コンファレンス	100,000	27,380	-72,620	事務委託費	350,000	150,700	-199,300	
本大会	300,000	682,543	382,543	国際交流費	0	0	0	
利息	0	3	3	部会補助費	150,000	40,000	-110,000	
寄付金	0	0	0	経済学会連合会費	35,000	35,000	0	
書籍売却代	0	0	0	学会費	100,000	50,000	-50,000	
定期購読料	0	0	0	換替票送付代	0	0	0	
利用料	『進化経済学ハンドブック』	6,000	1,038	-4,962	予備費	80,000	1,802	-78,198
印税収入	シュプリンガー・モノグラフ S.	28,000	38,387	10,387	前期収入合計	4,127,000	3,109,332	-1,017,668
当期収入合計	2,604,000	3,524,351	920,351	繰越金	3,982,227	5,920,246	1,938,019	
前期繰越金	5,505,227	5,505,227	0	総計	8,109,227	9,029,578	920,351	
総計	8,109,227	9,029,578	920,351					

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2024年 9月 26日 黒瀬 琢

進化経済学会監査委員

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2024年 8月 5日 藤田 菜々子

進化経済学会監査委員

貸借対照表
(2024年3月31日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
I 流動資産		II 流動負債	
現金		前受会費	40,000
預金			
普通預金	185,606		
郵便振替	5,276,786		
未収金	497,854	III 正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	5,505,227
		当期差益	415,019
合計	5,960,246	合計	5,960,246

財産目録
(2024年3月31日現在)

(資産の部)		(単位：円)	
科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(天竺出張所)	185,606
	学会事務局	郵便振替口座	5,276,786
未収金	第28回大会預金		497,854
資産合計			5,960,246

(負債および正味財産の部)		(単位：円)	
科目	適用	金額	
流動負債			40,000
前受会費		40,000	
負債合計			40,000
正味財産合計			
		前期繰越金	5,505,227
		当期収支差額	415,019
負債及び正味財産合計			5,960,246

進化経済学会

2024年度 収支計算書中間報告
(2024年4月1日～2025年2月14日)

(単位：円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	
会費	2,370,000	1,830,000	-540,000	大会費	1,100,000	0	-1,100,000	
正会員当該年度	1,860,000	1,470,000	-390,000	オータム・コンファレンス	400,000	0	-400,000	
正会員過年度分	0	170,000	170,000	本大会	700,000	0	-700,000	
終身正会員当該年度	360,000	100,000	-260,000	英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0	
院生会員当該年度	90,000	35,000	-55,000	通信費	15,000	9,093	-5,907	
院生会員過年度分	50,000	15,000	-35,000	交通費	0	0	0	
準会員	0	0	0	事務用品費	60,000	12,780	-47,220	
賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	15,000	0	-15,000	
JAFEE通貨寄付	0	0	0	送金手数料	15,000	6,345	-8,655	
その他(前年会費：預り金)	10,000	40,000	30,000	会議費	0	0	0	
大会収入	400,000	0	-400,000	印刷費	0	0	0	
オータム・コンファレンス	100,000	0	-100,000	事務委託費	300,000	72,319	-227,681	
本大会	300,000	0	-300,000	国際交流費	0	0	0	
利息	0	21	21	部会補助費	150,000	0	-150,000	
寄付金	0	140,707	140,707	経済学会連合会費	35,000	0	-35,000	
書籍売却代	0	0	0	学費賞	100,000	0	-100,000	
定期購読料	0	0	0	振替票送付代	0	0	0	
利用料	「進化経済学ハンドブック」	6,000	0	-6,000				
印税収入	シュプリンガー・モノグラフ S.	28,000	48,924	20,924	予備費	80,000	0	-80,000
当期収入合計		2,804,000	2,019,652	-784,348	当期支出合計	4,070,000	2,300,537	-1,769,463
前期繰越金		5,920,246	5,920,246	0	繰越金	4,654,246	5,639,361	985,115
総計		8,724,246	7,939,898	-784,348	総計	8,724,246	7,939,898	-784,348

2024年度 収支計算書中間報告(2025年3月31日時点の見込み)
(2024年4月1日～2025年3月31日)

(単位：円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	
会費	2,370,000	1,830,000	-540,000	大会費	1,100,000	182,009	-917,991	
正会員当該年度	1,860,000	1,470,000	-390,000	オータム・コンファレンス	400,000	182,009	-217,991	
正会員過年度分	0	170,000	170,000	本大会	700,000	0	-700,000	
終身正会員当該年度	360,000	100,000	-260,000	英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0	
院生会員当該年度	90,000	35,000	-55,000	通信費	15,000	9,093	-5,907	
院生会員過年度分	50,000	15,000	-35,000	交通費	0	0	0	
準会員	0	0	0	事務用品費	60,000	12,780	-47,220	
賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	15,000	0	-15,000	
JAFEE通貨寄付	0	0	0	送金手数料	15,000	6,345	-8,655	
その他(前年会費：預り金)	10,000	40,000	30,000	会議費	0	0	0	
大会収入	400,000	202,000	-198,000	印刷費	0	0	0	
オータム・コンファレンス	100,000	0	-100,000	事務委託費	300,000	72,319	-227,681	
本大会	300,000	202,000	-98,000	国際交流費	0	0	0	
利息	0	21	21	部会補助費	150,000	30,000	-120,000	
寄付金	0	140,707	140,707	経済学会連合会費	35,000	35,000	0	
書籍売却代	0	0	0	学費賞	100,000	30,000	-70,000	
定期購読料	0	0	0	振替票送付代	0	0	0	
利用料	「進化経済学ハンドブック」	6,000	0	-6,000				
印税収入	シュプリンガー・モノグラフ S.	28,000	48,924	20,924	予備費	80,000	0	-80,000
当期収入合計		2,804,000	2,261,652	-542,348	当期支出合計	4,070,000	2,577,546	-1,492,454
前期繰越金		5,920,246	5,920,246	0	繰越金	4,654,246	5,604,352	950,106
総計		8,724,246	8,181,898	-542,348	総計	8,724,246	8,181,898	-542,348

【注記】

- 本報告書は以下の4点
 - ①2024年度 収支計算書中間報告 (2024年4月1日～2025年2月14日)
 - ②2024年度 収支計算書中間報告 (2025年3月31日の見込み)
 - ③貸借対照表 (2025年2月14日時点)
 - ④財産目録 (2025年2月14日時点)
- 収支計算書について、「会費」は2025年2月14日時点と2025年3月31日時点での実現値を同額計上しているが、3月中の納付によって微増する。
- 収支計算書について、「大会収入」と「大会費」は2025年3月10日までに大会実行委員会から報告があった金額を計上している。2024年度オータムコンファレンスおよび本大会の実際の収入・支出額は、大会実行委員会からの収支報告を受け次第確定する。
- 収支計算書について、「進化経済学ハンドブック」と「シュプリンガー・モノグラフS」の印税収入は2024年4月以降に収入があったものを記載している。
- 貸借対照表と財産目録について、2025年2月14日時点では「コンビニ払い未入金」はなし。

貸借対照表

(2025年2月14日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
I.流動資産		II.流動負債	
現金		前年会費	55,000
預金			
普通預金	32,743		
郵便振替	5,261,618		
コンビニ払い未入金	0		
仮払金	400,000	III.正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	5,920,246
		当期差益	-280,885
合計	5,694,361	合計	5,694,361

財産目録

(2025年2月14日現在)

(単位：円)

科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(天美出張所)	32,743
	学会事務局(国際文献)	郵便振替口座	5,261,618
	サウト	コンビニ払い未入金	0
仮払金	大会準備金		400,000
資産合計			5,694,361

(負債および正味財産の部)

(単位：円)

科目	適用	金額
流動負債		
前年会費		55,000
負債合計		55,000
正味財産合計		
	前期繰越金	5,920,246
	当期収支差額	-280,885
負債及び正味財産合計		5,694,361

進化経済学会 2025年度予算（案）

（2025年4月1日 ～ 2026年3月31日）

（単位：円）

収入予算		予算額	支出予算		予算額
2024年度からの繰越（見込）		5,604,352	大会費		1,100,000
			（内訳）		
			オータムコンファレンス		400,000
			本大会		700,000
			英文誌編集刊行費		2,200,000
会費		2,010,000			
（内訳）					
正会員		1,800,000	通信費		15,000
終身正会員（同上）		100,000	事務用品費		60,000
院生会員（同上）		55,000	謝金		15,000
準会員（同上）		0	送金手数料		15,000
賛助会員（同上）		0			
JAFEE通貨寄付（同上）		0	事務委託費		200,000
その他（前受会費）		55,000			
大会収入		400,000			
（内訳）			部会補助費		150,000
オータムコンファレンス		100,000	学会賞		100,000
本大会		300,000	経済学会連合会費		35,000
書籍売却代（見込）		0	予備費		80,000
定期購読料（同上）		0	小計		3,970,000
利用料（同上）		6,000			
進化経済学ハンドブック					
印税（同上）		28,000	2026年度への繰越		4,078,352
シュプリンガー・モノグラフS.					
総計		8,048,352	総計		8,048,352

【注記：当初予算】

収入側

- 繰越金と会費収入は2025年3月8日時点での見込みをもとにした予想を計上しているが、実際には年度末にかけての納付によって微増する。
- 大会収入はオータムコンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭に今年度と同額の収入を計上（参考：コロナ禍2022年度ではオータム5万円、本大会15万円）。
- 2021年度から新項目として、利用料（進化経済学ハンドブック）および印税（シュプリンガー・モノグラフシリーズ）を設置。
- 2022年度から新項目として、JAFEE通貨寄付を設置（ただし2025年度は円とのリンクはない予定）。
- 2025年度にむけて、2024年度からの前受会費が55,000円あり。これを会費収入に含めている。

支出側

- 大会費はオータムコンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭に計上。
- 英文誌編集刊行費、部会補助費、学会賞、経済学会連合会費は、学会活動の本質かつ定額支出が予想されているため、前年度予算額を計上。
- 事務委託費の2024年度見込みは、75,000円程度であるが、ややゆとりを持たせて200,000円を計上。（参考：2021年度まで650,000円を計上、24年度は300,000円を計上）。

2024 年度部会報告

現代日本の経済制度部会 2024 年度の活動

第 1 回研究会

日時：2024 年 6 月 29 日（土）13：00～

場所：立教大学池袋キャンパス 12 号館 4 階共同研究室

テーマ：進化経済学を改めて学ぶ

プログラム：

はじめに

13:00～14:20（途中休憩を含む）吉田雅明（専修大学）「オルタナティブ経済学教育－通年で進化経済学を教えるプラン」

14:20～15:00 ディスカッション

15:10～16:30（途中休憩を含む）森岡真史（立命館大学）「資本主義的生産物市場の進化的理解：適応促進機能と多様化加速機能」

16:30～17:20 ディスカッション

17:30 クロージング

世話人：西洋（阪南大学）

参加者：29 名

第 2 回研究会

日時：2024 年 7 月 27 日（土）14：00～

場所：下関市立大学 本館 I -201 教室（2 階）

テーマ：アジア経済の制度と構造の理解に向けて

プログラム：

はじめに

原田裕治（摂南大学）「1980 年代以降の日本における制度的構図の変容：数量化された制度データの変化を中心に」

猿渡剛（下関市立大学）「ASEAN のデジタル経済協力：現状と課題」

世話人：西洋（阪南大学）

参加者：20 名

第 3 回研究会

日時：2024 年 12 月 21 日（土）

場所：名古屋大学東山キャンパス経済学部棟 4 階演習室 409

テーマ：制度と進化の分析的政治経済学の発展に向けて

プログラム：

13 時 30 分 はじめに

13時35分～14時15分 小暮憲吾（同志社大学経済学部）「技術進歩と雇用におけるマクロ動学分析」
14時15分～14時35分 ディスカッション
14時35分～15時15分 Wang Yangyuzi（東北大学大学院経済学研究科）「The survival of the optimal? Towards an evolutionary adaptive dynamics」
15時15分～15時35分 ディスカッション
15時50分～16時30分 Shen Yijie（名古屋大学大学院経済学研究科）「A Goodwin model with government strategies for workers' welfare: Income transfer vs. Education」
16時30分～16時50分 ディスカッション
16時50分 おわりに
世話人：藤田真哉（名古屋大学）
参加者：16名

第4回研究会

日時：2025年2月15日（土）13:30～17:30
場所：関西大学 梅田キャンパス（Zoom オンライン併用）
テーマ：合評会 Present and Future of Evolutionary Economics: Japanese Perspectives, Kiichiro Yagi, Yoshinori Shiozawa, Yuji Aruka, Makoto Nishibe, Akinori Isogai (eds.), Springer, 2024
13:30前 はじめに
13:30～14:10 八木紀一郎（京都大学）「バブル崩壊後の日本経済史における危機の転移」
14:10～14:50 有賀裕二（中央大学）「An evolutionary inference of optimal selection in view of dynamic programming and reinforcement」
休憩10分
15:00～15:40 磯谷明德（下関市立大学）「進化経済学と制度経済学：可能性と展望」
15:40～16:10 瀬尾崇（金沢大学）「JAFEEの四半世紀の成果を受けて次の四半世紀はどうするか？：3章・6章・10章を受けて」
16:10～17:20 前半著者によるリプライ&後半フロア・ディスカッション
～17:30 まとめ
世話人：西洋
参加者：23名

観光学研究部会の活動報告

観光学研究部会では、2024年度に2回の研究会と大会での企画セッションを開催した。

第53回研究会

<招待講演>中俣 保志氏（香川短期大学 教授）

開催日：2024年12月17日（木）

場所：Zoomによるオンライン開催

講演タイトル：ウィキペディアと"まちづくり"

第54回研究会

<招待講演>スミザース・理恵氏（関西外国語大学 特任准教授）

開催日：2025年3月21日（金）

場所：関西大学梅田キャンパス

講演タイトル：英国初期近代における宮廷道化師と舞台道化師

また大会企画セッションとして、サントリー文化財団の支援を受け「共同研究：太鼓持ち（髷間）に関する学際的視座」を開催した。

2025年3月「進化経済学アンケート」結果

実施者：八木紀一郎

I. アンケートの実施とこの報告

2025年3月下旬に、同月22-23日に大阪吹田市関西大学キャンパスで開催された進化経済学会年次大会の2日目に、*Present and Future of Evolutionary Economics: Japanese Perspectives*, Springer が昨秋に刊行されたことにあわせて、学会の過去・現在・未来を考えるセッションを開催した。それにあわせて、会員からアンケートをとることを思いつき、3月中に42件の回答を得たので、以下に紹介したい。アンケートは学会会場でも配布して若干の枚数を回収したが、ほとんどはGoogleFormsに作成したウェブ上のアンケートによる回答であった。なお、実施者の見解は、上掲書の序論にあたる第1章にあげてある。

紙媒体のアンケート用紙では、例示として前掲書の序論にあたる章で言及された著作ないし研究を、まず「A 方法論・基礎概念」、「B 制度経済学」、「C 基礎理論」、「D 数理的展開」、「E シミュレーション」、「F 技術・産業・イノベーション」、「G 進化思想・学史」、「H 教育」、「I その他」にわけて例示して、その下段に「回答者が推薦する研究」の記入を求め、さらにそれらの下段に横断的な回答枠を設けて「J 回答者が望ましいと考える研究方向」の記入を求めた。しかし、Googleformsでは、そのような2次元的な構図を設けることができなかつたので、AからJの設問を例示もなしに順番に配置するだけに留めた。回答者欄は「仮名でも結構です」としたが、回答者が自分の回答を確認するためにはメールアドレスを記す必要があったので、完全な匿名回答とはいえない。また、ほとんどの回答者が実名を明らかにして回答した。

以下、IIでは、回答項目ごとに、誤記等の訂正をのぞけばほとんど回答のままに、また回答者ごとの区分もせずで紹介する。3人よれば「文殊の知恵」というが、40人でもかなり豊かな内容になるというのが、アンケート実施者の感想である。

最後に、IIIで、お慰みまでに、このアンケート結果を、無料でテキストマイニングをしてくれるサイト（User Local: <https://textmining.userlocal.jp>）を利用してワードクラウドにしてみた。登場頻度を主にして図をつくるので、興味深い情報は影にかくれてしまう。また、アンケート回答は断片的なものがほとんどなので、「共起分析」も「階層的クラスタリング」もまだ、それほど面白いものにはなっていない。

II. 2025年3月「進化経済学アンケート結果」

2025年3月実施、進化経済学アンケート（オンライン回答フォーム記入および大会会場でのアンケート用紙での回答。計42名による回答。整理の都合上、回答を区切っている場合もある。
アンケート実施者：会員フェロウ 八木紀一郎

A 方法論・基礎概念にかかわって推奨する既存研究

- * Carsten Herrmann-Pillath, Kurt Dopfer
- * 国際価値理論と拡張
- * 経済地理学
- * ポスト・ケインジアン理論、SMT理論、レギュラシオン理論

- * 進化経済地理学
- * C. S. パースのプラグマティズム
- * 現在の主流派経済学が限界革命に基礎を置く方法論的個人主義に依拠していることから、主流派経済学のオルターナティブともいえるべき進化経済学では、方法論的個人主義を離れ、限定合理性を基礎とする心理学的研究に依拠すべきであると考えます。
- * 一般均衡論、力学系、熱統計力学、生態系の進化、生物進化論
- * 進化経済学会編『進化経済学ハンドブック』2006年；八木紀一郎・服部茂幸・江頭進編『進化経済学の諸潮流』2011年
- * Mizuguchi [2024] 'Economics of Startup-Ecosystem and Knowledge Management,' Presented Jafee 2024 Annual Meeting
- * Mizuguchi [2023] 'Microfoundation of Evolutionary Economics in relationship with Novelty Emergence and Environment,' presented to Jafee 2023 Annual Meeting.
- * 歴史的研究，現実の経済現象に根拠をもつ実証的研究。
- * 塩沢由典（2006）「概説」『進化経済学ハンドブック』
- * 八木紀一郎（2003）「進化経済学の現在」『変異するダーウィニズム』
- * 藤本隆宏（2000）「実証分析の方法」『方法としての進化』
- * 森岡真史（2000）「進化における定常性」『方法としての進化』
- * 森岡真史（2019）「進化経済学の可能性」『経済学のパラレルワールド』
- および本セッションでの報告論文
- * Nishibe, M. (2006) Redefining evolutionary economics, EIER, および本セッションでの報告論文
- * 塩沢由典「複雑系経済学」国際価値論
- * 特定の理論の適応可能な範囲の研究
- * セザー・ヒダルゴ「情報と秩序 原子から経済までを動かす根本原理を求めて」（2017）
- * パースおよびデューイのプラグマティズムに関する研究
- * 宇沢弘文の社会的共通資本の概念と関連研究
- * ミクロ・マクロ・ループや複雑さにかかわる，塩沢先生の一連の論考。英語だと，Carsten Herrmann-Pillath や Dopfer, Potts らによる論考。
- * J. R. コモンズ（方法論、基礎概念）
- * 塩沢由典『複雑系』 最初に学んだ思い出深い1冊です。
- * Practice theory（実践理論）に関わる諸研究＝全体論でも、方法的個人主義でもないアプローチが必要だと考えます。進化経済学会については、「進化」という言葉を冠しているが故に、他の領域の研究者も関与してきた面もあると思いますが、より経済学的視野への集中が進んでいるように感じます。進化経済学会なのだから、社会学でも政治学でもなく、経済学的視野を重視するという主張がなされ、その結果、経済社会を見る観点の進化に関する変異の幅が制約され、選択・淘汰基準も限定され、保持される内容も限定されることを懸念します。
- * C. S. Peirce, Chance, Love, and Logic

B 制度経済学の領域で推奨する既存の研究

- * レギュラシオン理論、ポスト・ケインジアン理論
- * 無形資産の研究
- * レギュラシオン理論、コンヴァンション理論
- * R. ボワイエ『資本主義の政治経済学：調整と危機の理論』
- * 主流派経済学の計量経済史や比較制度分析は、最適化原理を基礎とする方法論的個人主義に基づくものですが、最適化原理を前提とした方法論的個人主義への信頼が揺らいでいる今日、進化経済学では組織や制度をなるべくありのまま「ナラティブ」に記述することを重視すべきだと考えます。
- * ホジソン(八木紀一郎訳)『現代制度派経済学宣言』
- * P. ダスグプタによる、経済状況と環境と幸福度の関連性に関する研究
- * 債務貨幣論に立つ貨幣制度の文献的・歴史的・理論的研究
- * レギュラシオン理論, ポストケインズ派, 比較政治経済学
- * G. M. Hodgson: Economics and Institutions, 1988 (八木他訳『現代制度派経済学宣言』)
- * Aoki, M. (2001) Toward a Comparative Institutional Analysis ほか
- * 宮本光晴 (2004)『企業システムの経済学』
- * 磯谷明德 (2004)『制度経済学のフロンティア』
- * 瀧澤弘和 (2018)『現代経済学』
- * Harada, Y. and Tohyama, H. (2012) Asian capitalisms, in Diversity and Transformations of Asian Capitalisms
- * 若森みどりのポランニー研究
- * ホジソンの制度論
- * レギュラシオン学派研究
- * 青木昌彦先生の制度論を進化経済学の領域で展開していくような研究
- * Brites, Marindia; Almeida, Felipe (2022) - Original Institutional Economics Outside the United States: The Brazilian Chapter. Journal of Economic Issues 56 (2), 640-647, 2022
- * 地方社会のネットワークの分析
- * デビット・スローン・ウィルソン「社会はどう進化するのか 進化生物学が拓く新しい世界観」(2019)
- * 藤田真哉・北川亘太・宇仁宏幸 (2023)『現代制度経済学講義』ナカニシヤ出版
- * 経済システムの進化 (レギュラシオンなど)
- * ロベール・ボワイエによるレギュラシオン・アプローチに基づく諸研究 (例えば『パンデミックは資本主義をどう変えるか』)
- * 宇仁先生らのグループによる一連の研究：大方の制度派は、制度とは何かという問いに答えようとしてきたが、コモンズ研究から発するこのグループの議論は、望ま

しい制度・制度形成とはどういうものかという、(私見では)喫緊の現実的課題に応えようとしていると思われるから。

- * 制度経済学
- * J. R. Commons, Institutional Economics

C 進化経済学の基礎理論として推奨する既存研究

- * 国際価値理論と拡張
- * SMT 理論
- * 藤本隆宏氏の進化論的企業理論
- * 人の「計画」や「期待」の解明
- * 経路依存性
- * J. R. コモンズの制度経済学、集团的活動理論
- * 貨幣の制度分析・制度の制度分析
- * 率直に言って、進化経済学の基礎概念として生物学的進化論のメタファーを探るアプローチが成功してきたとは言い難いと思います。したがって、進化経済学の基礎理論と呼べるような既存研究があるとは思いませんが、主流派経済学の最適化原理を基礎とする方法論的個人主義とは一線を画した経済学が存在すること自体は、経済学のレジリエンスを高めることにつながると考えます。効用理論などが机上の空論だったと、21世紀のどこかで言われる可能性もあると考えています。
- * Nelson and Winter/J.S. Metcalfe/J. A. Schumpeter/R. M. May/経済物理学
- * SMT, 進化経済地理学の基礎理論, 江頭 (他)「進化経済学:基礎」(応用編はまだだろうか)
- * 進化経済学会編『進化経済学ハンドブック』2006年
- * 八木紀一郎・服部茂幸・江頭進編『進化経済学の諸潮流』2011年
- * 経済主体の限定合理性や経路依存を前提とする研究。
- * Shiozawa, Y., Morioka, M. and Taniguchi, K. (2019) Microfoundations of Evolutionary Economics
- * 塩沢由典 (2020)『増補 複雑系経済学入門』
- * 藤本隆宏 (2024)『日本のものづくり哲学 (増補版)』
- * SMT 理論を応用・近隣領域へ活かした研究 (日本の進化経済学独自の方向性になると思うので)
- * ネットワーク分析
- * Dennis Snower and David Sloan Wilson "Rethinking the theoretical foundation of economics" (2022)
- * Hugo Fort "Forecasting with Maximum Entropy The interface between physics, biology, economics and information theory" (2022)
- * ヴェブレの進化経済学に関する研究
- * 新国際価値論

* Nelson and winter (1982)の前半, モデル分析に入る前の基礎理論部分は, その含意が汲み尽くされていないし, 依然として発想の源として重要だと思われる.

* スラッフアの経済理論

* 行動経済学、進化ゲーム理論

* 浅田統一郎『成長と循環のマクロ動学』

* 吉田雅明 (入門的な図書が多いですが, これは学術的な1冊と思います。)

* 依田高典『行動経済学』(入門書として, 全体がわかります)

* Practice theory, Schatzki, T. The Site of the social : a philosophical exploration of the constitution of social life and change, Pennsylvania State University Press.

* T. Veblen, The Place of Science in Modern Civilization

D 進化経済学にかかわる数理的研究の領域で推奨する既存研究

* 国際価値理論と拡張

* SMT 理論、経済物理学研究

* 進化計算の社会システムへの応用

* 需要面と供給面を結びつける履歴効果の理論的研究。非線形経済動学の研究。

* 経済学における数理的研究それ自体の価値は、20世紀に比べて21世紀では大きく低下するでしょう。しかし、データ駆動型の研究の価値が高まる中でも、数理的研究の価値が失われるわけではありません。データ駆動型の因果推論、機械学習、生成AIなど、新しいタイプの数理的研究が次々と経済学と融合していくでしょう。

* M. Aoki and H. Yoshikawa

* 下のEのための応用性の高い数理モデル

* よくわからない

* 遺伝的アルゴリズムを用いた研究。数量調整経済の研究。

* 有賀裕二 (2004)『進化経済学の数理入門』

* Aruka, Y. (2024) Evolutionary Economics

* ネットワーク分析

* ポストケインズ派成長モデルに関する諸研究

* 塩沢・森岡・谷口先生のSMT理論.

* 有賀『進化経済学の数理入門』

E. 進化経済学にかかわって推奨するシミュレーション型の研究

* 人工市場(エージェント・ベースド・モデル)

* マルチエージェント AI 強化学習システム

* エージェントベース社会シミュレーション

* 進化経済学におけるマルチエージェント型の社会・経済シミュレーションは発展

途上であり、十分な成果を上げてきたとは言い難いですが、生成 AI の研究の進展により、AI エージェントと人間を融合させた社会・経済シミュレーションが登場し、従来のエージェントの異質性や合理性のパラメーター設定に新たな視点をもたらすことが期待されます。

* エージェントベースでマイクロ層、中間マクロ層、マクロ層の、時間展開を通じた相互作用を効果的に明示する汎用モデルの構築

* システムダイナミクス、マルチエージェントシミュレーション（進化経済学固有の方法ではないかもしれませんが）

* エージェントベースドシミュレーションの研究。

* Deguchi, H. (2004) Economics as An Agent-based Complex System

* U-Mart

* 学習機能を備えたエージェントを仮定した ABS

* 出口先生らのグループによる一連の研究.

* 人工生命の応用としての人口社会、所得格差・階級形成のシミュレーション

* Counterfactual Regret Minimization のようなアルゴリズムを利用したエージェントシミュレーション研究

* UMart. 出口弘。エージェントベースシミュレーションは現在も活発におこなわれていますが、そのパイオニア的プロジェクトでした。

F. 技術・産業・イノベーションにかかわって推奨できる研究

* 観光経済学

* 藤本隆宏氏の企業・産業進化理論

* 財やサービスのデザイン・開発・投資に関する研究（人の「計画」や「期待」の解明と関わる）

* Effectuation の実証研究と理論研究

* イノベーションは、経済学研究の中でも最も未分化な分野であり、せいぜい記述的研究や単純な数理分析のレベルにとどまっています。分析が困難なテーマとして立ち回っており、私自身も打つ手がなく、現象の予測が不可能であるため、十分な回答を持ち合わせていません。

* 諫早湾開門研究者会議編「諫早湾の水門開放から有明海の再生へ」

* よくわからない

* J. A. Schumpeter: Theorie der wirtschaftlichen Entwicklung, 1912 (1. ed.), 1916 (2. ed.) (八木他訳『経済発展の理論』)

* 安孫子誠男 (2012) 『イノベーション・システムと制度変容』

* 徳丸宣穂 (2020) 「イノベーション：ミッション指向型イノベーションとコーディネーション」『制度でわかる世界の経済』

* 藤本隆宏のアーキテクチャ論、経営論

- * イノベーション・システム論の実証研究（弘岡先生の貢献もその一つだと思いますが）
- * 中国企業型イノベーションの研究
- * 制度の経済学
- * 弘岡先生や Christopher Freeman, Carlota Perez らによる、シュンペーター的・制度派的長期波動論。現在現れつつある技術パラダイムがどのような制度刷新を求めているのかを読み解くうえで重要な研究だと思う。産業研究については、藤本先生の一連の論考。
- * スラッファ体系と産業連関表のデータを利用した研究
- * 音楽・映画・アニメなどのエンタメコンテンツの進化論的分析
- * ネルソン/ウィンター『経済変動の進化理論』

G. 進化思想や経済学史にかかわって推奨できる研究業績

- * ヴェブレンの研究
- * 能力主義の展開について
- * 有賀裕二「渋沢栄一と『論語』」などによる経世済民の研究
- * 引き続き重要ではあるものの、学説史と原論が未分化だった 20 世紀型の経済学教育・研究は、次第に影を潜めていくでしょう。スミス、マルクス、ケインズ、シュンペーターといった経済学者に関する研究は、個人の研究としては残るものの、経済学教育・研究のコア科目からは姿を消していくと思います。
- * 原田哲史編著『経済思想史』（近刊）
- * 木村資生「分子進化の中立説」、カウフマン「自己組織化と進化の論理」
- * よくわからないが、日経評が昔出した「経済思想」シリーズはこの分野が包括的にカバーされているように思える。
- * J. A. Schumpeter: History of Economic Analysis, 1954（東畑訳『経済分析の歴史』）
- * K. Brandt: Geschichte der deutschen Volkswirtschaftslehre, 2 Bde., 1992-93
- * 進化の多様性に関する研究。
- * 八木・服部・江頭編（2011）『進化経済学の諸潮流』
- * 江頭や吉野によるハイエク研究
- * これまで論じられてきた先人とされる経済学者（ヴェブレンやシュンペーターなど）とネルソン＝ウィンター以来の現代の進化経済学を橋渡しする位置づけにある学史的連続性に関する研究（私の在外研究のテーマの一つはこれです）
- * Spósito, Theodoro (2024) - Pluralism in Brazilian Economics: History, Institutions, and Implications - Universidade Estadual de Campinas
- * ハイエク研究
- * Shingo Takahashi (2025), Transaction Economics of John R. Commons: Towards Reasonable Capitalism, Routledge

- * ホジソン『進化と経済学』
- * アルフレッド・マーシャルの経済学
- * 経済理論の歴史の進化論的考察

H. 進化経済学の教育面にかかわって推奨できる研究

* 中央大学授業科目「進化経済学」（これまでの担当者：塩沢由典、有賀裕二、植村博恭）

* 観光学

* Samuel Bowles & Simon D. Halliday (2022) Micro Economics: Competition, Conflicts and Coordination

* 経済学は今、かつてないほど工学や医学といった理系分野から注目を集めています。例えば、行動経済学のような分野は、多くの理系研究者が学びたがり、興味を持ち、自分の研究に取り入れようとしています。他方で、進化経済学は本来、異分野融合型の研究でありながら、そうしたゲートウェイを十分に整備できておらず、理工系の専門家に対して積極的にアプローチすることが求められるのではないかと考えます。

* ダーウィン「種の起源」、サイモン「システムの科学」

* 研究ではないが、じっさいの学部のカリキュラムとして、管見の限り中央大と専修大（あとは金沢大？京大？）くらいしか進化経済学という科目がないようだから、そもそも教育面が充実しているとはいえない。学会でオンラインチュートリアルなどを行って、会員の（進化経済学に近い：例えば社会経済学や政治経済学など）担当科目シラバスの一部やオンデマンド授業に利用するのも学問の普及によいかもかもしれない。

* 八木紀一郎編『経済学と経済教育の未来』2015年

* 江頭進他編（2010）『進化経済学基礎』

* 教科書作り（いろんな教科書が出てくるなかで核となる共有部分が見えてくるように思います）

* 特に無し

* EIER の経済学教育特集号

* 進化思想学史

* ダーウィン『人間の由来』

I. その他、進化経済学に関連して推奨する既存の研究

* 地域政策・地域経済学

* 観光学

* 人口成長率がマイナスであることを許容した理論的研究。

* 八木紀一郎編『経済学と経済教育の未来：日本学術会議〈参照基準〉を超えて』

- * 青山秀明ほか「パレート・ファームズ」
- * 昨年度の大会を聞いて、あらためて進化経済地理学(Ron Martin など) は、進化経済学を基礎にしているの、学ぶものがたくさんあった。
- * 進化経済学会編『進化経済学ハンドブック』2006年; 八木紀一郎・服部茂幸・江頭進編『進化経済学の諸潮流』2011年"
- * 非線形現象に関する研究。
- * 依田高典 (2010) 『行動経済学』
- * 柳原透氏の「Economics System Approach」(East Asian development experience : economic system approach and its applicability (edited by Toru Yanagihara and Susumu Sambommatsu, I.D.E. symposium proceedings No.17, 1997)の Ch. 1. Economic System Approach and Its Applicability に書かれた経済発展を考える枠組み)

A, B, C, D のすべてに関係するとともに、F2 も深く関係します。将来の研究方向にも関わるものなので、この項目に回答します。

Yanagihara 氏は、進化経済学会の会員ですが、私(塩沢由典)は、一週間ほど前まで、この構想について知りませんでした。発表されたのがアジア経済研究所の国際シンポジウムの会議録の形だったことが進化経済学会にとっては災いしているかもしれませんが、柳原氏は進化経済学会の大会でも報告されています。世界銀行の構造調整を中心とする開発経済理論に対し、歴史的・進化的なシステム解析のアプローチを提唱されています。

私は詳しくないのですが、平川均氏の近著(Hirakawa and Maquito の二人による共著 The Dynamics of Asian Economic Development / Understanding Asia and Its Ways Forward, Springer, 2024)の第11章 Akamatsu's Flying Geese Model of Development in East Asia and Beyond)によると、これは世界銀行と(世界銀行の開発プログラムに関係する)日本の開発経済学に携わる学者たち(具体的には、石川滋、大野健一、柳原透などの諸氏)の間の意見対立を反映するものだそうです。残念ながら、柳原構想は、世銀側の経済学者たちには理解されなかったようです。その理由の一つに分析枠組みが Yanagihara 自身が We are aware that ESA needs to be further developed and elaborated through a series of theoretical and empirical studies to explore its potentialities as research paradigm とまとめているように、構想を展開できる理論的枠組みを欠いていたことが挙げられます。しかし、現在の目でこの構想を読み直してみると、少なくとも理論的分析枠組みについては、SMT (Shiozawa, Morioka, and Taniguchi 2019)を中心とする Post Keynesian economics が応えられるものと思われまます。"

- * 近い将来関心が続くようなデータ・サイエンス分野にコミットするような研究
- * 特に無し
- * ヴェブレン・コモンスその他の進化経済学・制度経済学に関する理論的研究 (アメリカ進化経済学会は理論的研究をおろそかにして迷走している感じがするので)。
- * パシネッティの経済理論
- * ジョゼフ・ヘンリック『文化がヒトを進化させた』
- * 『進化経済学ハンドブック』(進化経済学的なものの見方がわかります)

J. 今後、重要になる、あるいは有望であると考えられる研究領域、あるいは研究方針

- * 国際価値理論と拡張
- * 経路依存性の考え方は、観光学を発展にとって大変重要であると確信しています
- * 社会経済システムを進化と制度の観点から分析し、ポスト・ケインジアンのマクロ動態理論と統合する研究。その際、SMT 理論は、重要な理論的なコアとなり

うる。この研究方針に基づき、植村博恭は、Uemura, H. Evolutionary and Institutional Analysis of Socio-economic Systems: Beyond Marx and Keynes, Springer, 2028 を企画しています。

- * 無形資産と財・サービス、経済発展との関係
- * 観光学
- * 自然災害・戦争被害と経済復興
- * パースのプラグマティズムをベースに制度進化のモデルを構築すること
- 複雑性、不確実性に対するロバストな意思決定理論
- * 古典派・カレツキ（マルクス）・ケインズの統合分析
- * 主流派経済学の代表的個人モデルを基礎としたモデルに対抗(相互補完)できる理論モデルの構築とデータに基づく実証分析。
- * 機械学習
- * 広義には人工知能・機械学習、狭義には深層学習、因果推論、生成 AI がデータ駆動型の研究といえるでしょう。これらをうまく取り込めなければ、進化経済学は衰退するでしょう。
- * 経済学史・経済思想史的な方向からの研究
- * 確率的に変動するミクロ的意思決定とそのマクロ的帰結を一定の公正な範囲に制約する制度条件の研究/非競争環境からイノベーションを創発させる条件の研究

- * 進化経済学固有のものとはいえないが、レギュレーション理論、ポストケインズ派、比較政治経済学の視点は進化経済学と親和的な側面をもつ。進化経済学固有のものといえば、SMT のような大胆かつ厳密な研究も有望。この研究成果を教科書などに落とし込む作業も大事だと思います。教育レベルで進化経済学が普及しないと、この分野の今後がないので。
- * 経済学史・社会思想史からのアプローチ
- * Biology and Economics
- * 進化心理学・社会心理学の研究グループとの連携
- * 故加藤弘之門下の中国経済研究者グループとの連携"
- * 前項 I の最後にも書きましたが、SMT とその関連の諸論文によって、経済発展を含む経済学の大きな枠組みに対し、Post Keynesian 経済学および進化経済学が分析面でも大きく貢献できる時代が来たように思われます。PK 経済学について言えば、PK 経済学は、fundamentalists, Kalecki 派・Sraffa 派などに分裂・対立してきました。2000 代の初期には、Sraffa を PK から追放せよといった言説とともに、PK 自体が消滅するかもしれないとの予測もありました。この事態は、皮肉にも 2008-2009 年の金融危機のおかげで回避できたが、Kalecki 派と Sraffa 派とは対立したままだった。しかし、SMT の価格理論と(Morioka の定理を中核とする)数量調節理論とによって、PK 経済学は価格理論とミクロの経済調節メカニズムを備える、ミクロとマクロとを接続しうる理論体系へと発展したと考えます。それは、Shiozawa (2020) A new framework for analyzing technological change のように、技術進歩という進化経済学の中核部分にも適用可能領域を拡大しています。
- * この事態は、I 項にも書いたように、柳原構想の理論的肉付けを可能にしていると思われま。1997 年から見れば、もう 20 年近い年月が経過しているが、本当に革新的な構想にはこの程度の時間の遅れは普通のことかもしれません。アメリカ合衆国に第二次 Trump 政権が誕生し、経済学の多くの枠組みがひっくり返りつつある。事実としては不幸なことと思うが、経済学にとっては好機かもしれません。多くの若手研究者の参加と賛同を得て、柳原構想を全体として実現する機運が生まれることを期待したい。"
- * デジタル化、情報資本主義、非市場的調整の可能性
- * 学会の目的を共有する海外の学会との連携（最近、海外からの招待講演などがなくなってしまったので。私も在外研究でそのような可能性を探ってみます）
- * 人口増加を前提とできない社会の維持の研究
- * 世界中の経済学者（とくに異端派経済学者）が利用できる理論体系の構築・提供
- * 文理融合はもちろんだが、法学と経済学、社会学と経済学のような文文融合。

貨幣も制度で、ビットコインなど貨幣の制度も進化しているのではないかと思う
(それがよいかどうかは別である)

* 「人間形成型発展様式」ないし「人間中心の経済」の可能性とメカニズムを理論的及び実証的に示す研究

* (1) 人類学的方法・視点の導入, (2) 進化的な視点による社会科学の統合, (3) 生態学にかかわる知見・実践から学んでレジリエントな社会経済システムのための制度・政策を構想すること.

* スラッファ体系と産業連関表のデータを利用した研究

* ベクトル貨幣論

* 岩井克人『貨幣論』では貨幣の実体的(1枚の1万円札のコスト)要因を書いているが、貨幣を支える制度的側面(銀行、官庁、会社、警察、大学等々)について全くふれていない。実際は貨幣は制度的側面に支えられており、それは記述しにくい領域であるが、その制度的側面の利益、コスト、どういう記述が可能であるかということ、たとえば西部忠先生の著書などを手掛かりにして、(ハイエク、シュムペーター..etc)記述することをめざしたい。結局は貨幣社会を支えるマックス・ウェーバーのような精神の側面が論ぜられればなおよい。(進化の精神である。)

* 1, 新古典派を良く理解した上で、ポストケインジアンに限定せず、広く多様なアプローチを探索したい。

2. 数理・データサイエンス・AI教育に対応していきたいです。"

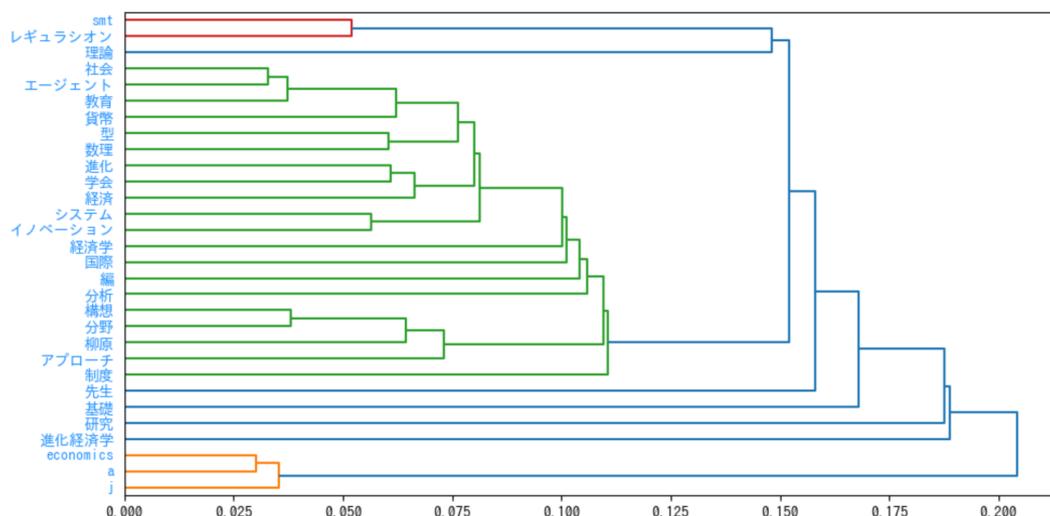
Intro.で言及された研究例以外では、地域通貨以外の貨幣に関する研究。また、国際金融システムに関しては弱い気がする・

未来社会論 (Andreas Reckwitz, The Society of Singularities, Polity Press, 2020.)、
資本主義評価論 (マーク・フィッシャー『資本主義リアリズム』堀之内出版、
2018年。資本主義を超克することはできないという主張)

* 貨幣・信用制度の進化論

III. テキスト・マイニングにかけてみた

以上の結果を、AIに加工させてみようと思って、User Local AI テキストマイニングというサイト (<https://textmining.userlocal.jp>) で遊んでみました。まずは、「階層的クラスタリング」です。



次に要約させてみました。Copilotよりはマシでしたが、断片的な文章をつなぎあわせるのは、無理な注文ですし、AI君自身の進化経済学にかんする学習が必要なようです。

「この文書は、進化経済学に関連する理論や研究に関する広範な概要を提供しています。進化経済学は、主流派経済学の方法論的個人主義に対する代替として、限定合理性に基づく心理学的研究を重視すべきであるという考えが示されています。また、進化経済学の基礎理論として生物学的進化論のメタファーを探求するアプローチが十分に成功していないことが指摘されています。主流派経済学の最適化原理から脱却することで、経済学全体のレジリエンス向上が期待されています。さらに、進化経済学に関する具体的な研究や関連する文献が挙げられています。進化経済学会が編纂した『進化経済学ハンドブック』や、『進化経済学の諸潮流』のような出版物があります。また、Mizuguchiによる新たな応用研究が今後の学会において発表されることも言及されており、これらの研究は経済組織や制度の記述においてナラティブ的アプローチが重要であると強調されています。最後に、進化経済学はその本質的な理論や方法を確立する過程にあり、特に多様なアプローチを探索することが求められています。デジタル化や情報資本主義、非市場的調整など現代の社会経済的な課題に対し広範な視点での研究が期待されています。これらの要素は、進化経済学の発展を促すために必要な枠組みの一部と見なされています。」

最後に、アンケート結果の名詞だけのワードクラウド。こちらでは、「進化経済学」が正面に来たのはいいですが、登場頻度をもとにした作図ですから、興味深い情報は登場しません。塩沢フェロウ、有賀フェロウの姓名が分離されてしまいました。ごめんなさい。



以上 2025年4月9日 八木紀一郎 作成

編集後記

暑い日が続きますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。地球環境の変化が私たちの日常生活にも大きな影響を及ぼすなかで、6月初めに数年ぶりに行ったパリでは、生物多様性や地球温暖化対策への取り組みが街のあちこちで見かけることができました。その象徴的であったのが、表紙にも載せているパリ市庁舎前の森づくりでした。フランスの森林率は約31%なので、都市に森を持ってきました。それに対して、森林率が約68%の日本では、どんな取り組みができるのでしょうか。

ニューズレター編集担当 横田宏樹（静岡大学）